

家庭学習「俳句(はいく)を楽しもう」

俳句は、五・七・五の十七音で作られた短い詩です。ふつうは、「季語」(きご)というきせつを表す言葉が入っています。俳句の十七音の中には、しぜんの様子、そこから感じられることが表されています。

☆次の俳句を声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。どこで区切って読むと、調子よく読めるか、考えてみましょう。すべて読めたら、音読カードにチェック！

☆教科書p85～86にそれぞれの俳句が表していることがのっています。あわせて、読んでみましょう。

かわずと
古池や蛙飛びこむ水の音

しず
閑かさや石にしみいる蝉の声



松尾芭蕉(まつおばしよ)

今から四百年ほど前、

江^え戸^ど時^ぜ代^ん前^き期^はの^い俳^{じん}人[。]

日本を旅して、つくった俳句は、

数えきれないくらいあるよ。

「おくの細道」という本もゆづめいだよ。

春の海終日のたりのたりかな

ひねもす

菜なの花や月は東に日は西に



与謝蕪村（よせぶそん）

今から三百年ほど前、

江戸時代中期ちゆうきの俳人・画家

松尾芭蕉さんにあじがれて、旅をして俳句をつくったこともあったなあ。
俳句もすきだけど、絵をかくのも じついなんだ。

雪とけて村いつばいの子どもかな

いっばい

夏山や一足すづついに海見ゆる



小林一茶（いしばやしう）

今からおよそ二百五十年前

江戸時代後期こうきの俳人。

松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶の三人が、江戸時代の三大巨匠（きよしやう）と言われているよ。

【やってみよう！】俳句を読んでイメージしたことを絵にしてみよう。

詩や歌の音の数

昔の詩や歌には、五音と七音を組み合わせせて調子を整えているものがたくさんあります。たとえば、「いろは歌」は、七音、五音のくり返りで作られています。声に出して読み、調子のよさを感じてみましょう。

いろはにほへと

ちりぬるを

わかよたれそ

つねならむ

い

うゐのおくやま

けふこえて

あさきゆめみし

え

ゑいもせず